

県都福井のまちづくり

北陸の名城 「福井城」を格に

FUT福井城郭研究所から発信

本城橋と本丸大手門跡

壊滅的打撃を受けた戦災や震災から60年余りが経過した県都福井の将来像をどう描くか。県都デザイン懇話会は「福井城址」を生かしたまちづくりを提唱。福井工大吉田純一教授は「全国の主要都市は、城を核にした城下町が基盤にある」と提言する。

都市全体をリニューアルする時期を迎える県都

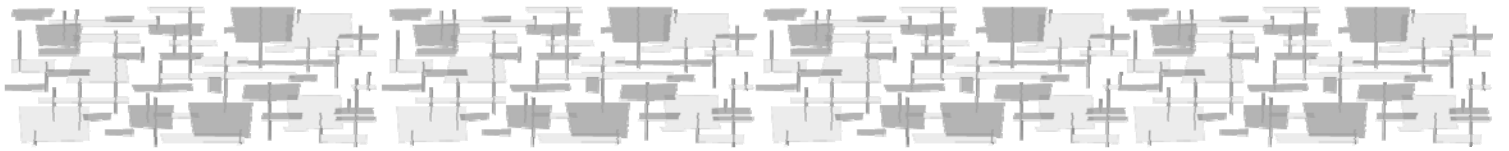
北陸新幹線の県内延伸や高規格道路の整備など、福井県を取り巻く高速交通体系が大きく進展、JR福井駅西口再開発事業も進み、福井の玄関口も大きく様変わりする。

県都福井は、戦災、震災から60年余りが過ぎ、都市全体がリニューアルする時期を迎え、県と福井市が設置している県都デザイン懇話会は福井城址を歴史資源として生かすため、県庁と市役所を移転・再配置し、市中央公園などを一体化した「福井城址公園」の整備を提唱した。会合では、城址公園整備に

関し「当面はオープンスペースとして活用し、城址復元などを議論すべきだ」「現代の都市でありながら歴史も感じさせる仕掛けが必要」といった意見が出た。県民意見を反映するプロセスを通し、関心を高めるよう求める声もあった。

城郭と城下町の研究解明 まちづくりの基盤となる

福井工業大学（福井市学園3丁目）の図書館4階に、日本の近世城郭や城下町とまちづくりを総合的に研究する「FUT福井城郭研究所」がある。今年5月23日に開設され、公的な城郭研究施設は滋賀県や姫路市、金沢市にあるが、大学内に城郭の研究所が



設立されたのは全国で初めてという。

所員は所長の吉田純一建築生活環境学科教授のほか、同大学で城郭や城下町の研究、まちづくりの研究・活動に取り組んでいる教員4人で構成。将来的には学生にも研究に参加してもらい、学内外の研究者の招聘も予定している。ここでは、福井城とその城



FUT福井城郭研究所
福井工業大学図書館4階
(福井市学園3丁目)

下町を格とするまちづくりの拠点として全国発信する一方、現在の福井市の都市形成の基盤でもある福井城とその城下町の成立や発展、全国との事例と比較しながらその特質や特徴を説明。「県都デザイン懇話会」が提唱する「福井城址公園」などの福井市のまちづくりにおける重要な手がかり、手法を提示するなど、県や市と連携しながら福井市のまちづくりに役立てていく。



福井城本丸模型を説明する吉田教授

福井城や福井城下の復元模型も展示され、一般の学生も立ち寄れる。

天守閣焼失後も福井城は北陸の名城の偉容を保つ

お堀の中の県庁は、福井城の本丸跡に建っている。その敷地内には福井の地名の由来にもなったという説もある井戸跡「福の井」もある。

福井城は、関ヶ原の戦いの後、徳川家康の次男、結城秀康が、越前68万石の居城として従来の北の庄城を大改修して築いたものである。その範囲は、東は荒川、南は足羽川、西は現在の片町、北は現在の松本まで、ほぼ2km四方にわたっている。この範囲内に縦横に堀、石垣を廻らした巨大な城郭である。

築城時の天守閣は5階建て、松平文庫に残る絵図によると、石垣を含んだ高さは約37mであり、現在の11階建のビルに相当する。最近では10階建のビ



福井城天守閣跡

ルといっても誰も驚かないが、今から40年前には10階以上のビルは福井県内には皆無だったのではないだろうか。これを考えると、今から約4百年前に築かれた福井城天守閣の巨大さは驚異的なものであったであろう。残念ながらこの天守閣は寛文9年の大火で焼失し、以後再建されることはなく、その寿命は六十余年に過ぎなかった。

天守閣焼失後は、本丸の隅櫓2基を3階に改修し、天守閣の代用としたが、隅櫓とはいえ、その規模は10万石程度の大名の天守閣に相当し、これを2基備えた福井城は、北陸の名城の偉容を保っていたといえる。

本丸西面



県都の歴史的シンボル まちづくりの格となる

福井城の特色の一つに、石垣の美しさがある。本丸に残る石垣は表面だけで約2万5千個の石材が使われ、この全てが足羽山産出の笏谷石である。福井城全体ではおそらく数十万個の笏谷石材が使用されたであろう。ほぼ均一の石材により目地を揃えて構築された石垣は、独特の構成美を持つているといえる。

福井駅西口地下駐車場建設に伴う発掘調査時に、石垣が出土した。吉田所長は「本県の、福井市の貴重な歴史遺産であることは間違いなく、この石垣を保存し、駐車場の一部に展示すべきだった」と残念がる。

吉田所長は平成14年9月に設立した「福井城の復元をすすめる会」の会長も務め、「まず県都の歴史的シンボル『異櫓』を復原しよう」を合い言



福井城異櫓合成写真 監修：福井工業大学吉田純一教授
福井市立郷土歴史博物館所蔵写真を現況に合成して作成

葉に、講演会・説明会など各種イベントを開催しながら県民運動・市民運動へと拡大を図っている。「全国の主要都市は、城を核にした城下町が基盤にある。これからのまちづくりを考える上で、城郭や城下町の研究は大切だ」と、意気込む。

県都福井の「顔」として福

井駅前を整備が進められている。県都には、にぎわいも重要だが、福井県民が長い歴史に裏打ちされた誇り、魅力を感じるまちづくりが重要だろう。その中心に「シンボル」・「格」となる北陸の名城「福井城」がそびえ、県民が憩い、県外から観光客が訪れる。今後、県都福井のまちづくりの将来像がどのように描かれていくのか注視したい。



福井工業大学 吉田 純一 教授

教授・工学博士
特別教育士(工学・技術)
図書館長
FUT 福井城郭研究所長
建築生活環境学科主任
大学院社会システム学
専攻主任
大学院建築学コース主任